

# かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 24 No10

279号

平成28年10月 7日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

## あなたは大丈夫？子どもの救急蘇生？

### 院長

毎年9月は防災月間で、9日は救急の日です。『お母さんクラブ』では、18年前から毎年9月に「あなたは大丈夫？！子どもの救急蘇生！」を計画し、9月29日に福沢市民センターで開催しました。10月になってしまいましたが、今月号は子どもの救急について考えてみましょう。

救急というと病気を思い浮かべますが、必ずしもそうではありません。あまり知られていないことですが、1歳を過ぎると死亡原因の1位は不慮の事故です。日本は先進国でも病気による死亡は低いのですが、残念ながら事故による死亡は先進国の中でも高い方です。

事故による死亡の内訳では、0歳児では窒息、1～4歳では交通事故と溺水、5～9歳では交通事故が最も多くなります。溺水が多いとは、信じられないかもしれませんが事実です。外国ではプールが多いのですが、日本では室内の特に浴槽で起こることが特徴です。これには生活習慣が関係し、多くの国では風呂に水をためる習慣がありません。もちろん風呂だけでなく、洗面器に5cm水が張ってあるだけで溺れる可能性があると言われていています。成長するにつれ行動範囲が広がりトイレでもお風呂でもベランダでも、いつでもどこへ行くかわかりません。危険な場所に行かせないことはもちろんですが、事故防止のためには浴室に鍵をつける、風呂に水を張らないなどの対策が必要です。

死亡に結びつかない事故として多いのが転倒・転落です。最近、洗濯機から落ちた子が続けて来院しました。洗濯機の上で遊んでいるわけではありません。たまたま、お風呂上がりのお母さんが体を拭いているときに落ちたのです。運が悪いことに、それが初めての寝返りだったのです。床に寝かすことには抵抗がある

かもしれませんが、安全を第一に考えることが必要です。寝返りやつかまり立ちは、いつできるようになるのかわかりません。ベビーベッドからの転落もよくあるので、常に柵を上げておくようにしたいも



のです。

次は、交通事故を考えてみましょう。交通事故は道路に飛び出して、はねられることだけではないのです。子どもを車に乗せていて、衝突したり急ブレーキをかけたりしても事故は起こります。固定されていないければ、フロントガラスに突っ込んでしまう可能性があります。チャイルドシート装着、シートベルトの着用（後部席も）を習慣づけましょう。

起こってから後悔するのが事故です。『後悔先に立たず』のことわざ通り、起こる前に対策を講じる必要があります。子ども自身では身を守れない以上、事故防止は親の義務と考えましょう。

救急車の出動件数は、年々増加していることは、皆さんもご存じでしょう。中にはタクシー代わりに利用する人もいます。子どもの状態が重症であれば、救急車を呼ぶのは止むを得ません。子どもの状況を客観的に判断して、重症か軽傷かの判断ができるような学習も必要です。救急車を安易に使えば、次に必要とする人の対応が遅れる可能性が出てきます。命にかかわるような重症な人を優先したいものです。

もうひとつ大事なことは、救急蘇生です。地域によって異なりますが、救急車が到着するまでには5～6分以上かかるのが現状です。成人では心肺停止が5分続くと死亡率は50%を超えてしまいます。救急車到着まで、心肺蘇生を続けることが命を救うだけでなく、後遺症も減少させる可能性があります。希望すれば消防署などで異物除去、AED体験を含めた救急蘇生の講習を受けることが可能です。講習は子どもだけに役立つものではないので、家族のためにも、ぜひ考えてみてください。

この記事を通じて子どもの周りの危険度をチェックし、危険な状況を取り除いてください。そして救急車の利用や救急蘇生についても考えてみましょう。

「あなたは大丈夫？！子どもの救急蘇生！」には、12組親子合わせて27人が参加しました。さて参加したお母さんはどのような印象を持ったのでしょうか。感想は2面「読者の広場」をご覧ください。今回は仙台市医師会公報誌「てとてとて」掲載のための取材を受けました。掲載は裏表紙の「ほっとシーン」

です。「ほっとシーン」は緊張感あふれる医療現場の中で医療関係者や患者さんがホッとできるをシチュエーション紹介するものです。救急蘇生という大変なことを学びながらホッとできる活動を取り上げてもらいました。こちらもぜひご覧になってください。



### 10月のお知らせ

#### ・休診のお知らせ

十四大指定都市連絡協議会（名古屋）  
21日（金）～22日（土）は休診となります  
ご協力お願いします。

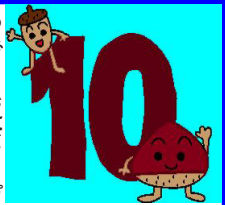
#### ・栄養育児相談

12、26日（水） 13:30～  
栄養士担当 参加無料



『がんばろう！熊本 がんばろう！日本』  
“みんなでやれば、大きな力に”

## 読者の広場



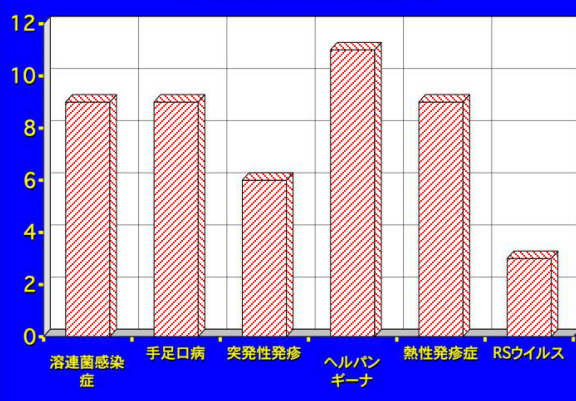
先月は久しぶりに10通のメールをいただきました。まずは一面で紹介した『あなたは大丈夫？子供救急蘇生！』に参加した青葉区の斉藤さんからのレポートです。「消防隊員の鎌田さんから、救命処置の流れ(心配蘇生法とAEDの使い方、喉に詰まらせた時の対応)について、講義していただきました。鎌田さんのお子さんもかわむらこどもクリニックのOBOG。十数年、年に1回、この講習会の講師を続けておられ、わかりやすい言葉でポイントを押さえてお話ししていただきました。和室はとてもにぎやか。子供たちがお友達と遊んだり、走り回ったり。泣いたり、ママが追いかけてたり。鎌田さんの講話・実技を見たあと、二つのグループに分かれて、全員が人形を使って実習し、都度、鎌田さん・川村先生にアドバイスをいただき、蘇生法を身につけました。周りで誰かが心肺停止になったら、放置するより、救急車が来るまでの間に処置をすることが大事。数分放置することで、亡くなったり、重症化するそうです。救急車が来るまでの間に私達にできることが、心肺蘇生、AED、タッピング。実際、街中での心配蘇生・AEDの使用が増えているとのことでした。参加した皆さんは、もしも、自宅で子供が家族がそんな事態になったらというシチュエーションを想像しながら、人形に向かって、真剣に実習しました。例えば、声かけは、子供や大人には肩、赤ちゃんは足の裏をさわって行う・胸骨圧迫の部位と押す力がどれくらいなのか触って確認等々、大人だったら子供だったら赤ちゃんだったら、どう対応するかということを具体的に細かく聞きながら実習することができました。私は、今回、実際にやってみてそのような場面に遭遇したときに引かずにやってみようと思えるようになりました。私達の行動ひとつで救える命があることを実感しました。滅多に遭遇することはないですが、我が家で、街中で、どこかで起きた場合、周りの人と協力して対応していきたいと思えます。鎌田さんからは、救急車が来るまでの対応が大事になってくる。今日体験したことを実践してほしい、川村先生からは、何もしないより何かする！それが後悔しないことにつながるのお言葉を頂きました。実習中も子供たちは周りににぎやかに過ごしていましたが、子供を見守りながらこのような勉強会に参加できるのはありがたかったです。子供やママのことをよくわかっていただいているクリニック主催だからこそ、気軽に参加できたり、心肺蘇生というハードルの高い内容を身近にとらえて勉強することができました。そして、この講習会で、川村先生はじめ、職員の方々と受診中になかなかできない《お話》ができたのも嬉しかったです。お母さんクラブ、たくさんの収獲がありました。次回の12月のクリスマス会も楽しみにしてます。内容だけでなく、「お母さんクラブ」の目的や意義も伝わってくる名レポートでした。

続いては宮城野区の菅井さんからのとても嬉しいメールです。「かわむら先生、おはようございます(\*^0^\*)昨日は、親子共々ありがとうございました。正直、あの位元気があれば病院に行く程でもなく…実際、悪ふざけしてうるさくて、ご迷惑お掛けしました。他の患者様にも、申し訳なく思っております。私自身、新たな気持ちで新しいことに挑戦。8月からみっちり2週間研修を受け、オープニングスタッフとして働いております。しばらくは、休む事がタブーな感じで、動ける時に早めに対応…と、先生に会いに行きたかったです(笑)開業当初からお世話になっておりますが、先生の理念でもある、安心というお薬はずっと変わらずなので((o(^-^o))子供達も、かわむら先生が大好きで、ちょっと調子が悪いと、「あつかわむら先生のところに行かなきゃ」です。嬉しさと、優しい先生に甘えて、フレンドリーで生意気になってしまっ、すみません。具合が悪ければ、ぐったりしてそんな元気もないだろうし、元気な証拠！って、先生なら大目に見て下さるかな？なんて、母も甘えております。私の胃の痛みは、明らかにストレスで自分わかっているのです。先生のおっしゃる通りに一度時間をみて内科でキッチンと診て頂こうと思っておりますが…内服薬+安心のお薬を頂いたので、痛みがひきました。ありがとうございます。私事ですが、どこで働いている時も、職業柄傾聴と安心を提供することを、一番大切に考えてきました。それだけは、誰にも負けない気持ちで、働く仲間も人間ですから、色々な考えの方がいらっしやいますし、時に壁にぶつかり自信をなくし、自分らしさを失いかけ…うん、実はそんな状況だったんです。私、かわむらこどもクリニックは、先生を始め看護師さん事務の方達まで、ずっと変わらず理想とする素晴らしい姿。いつも、尊敬しております。昨日も、そんなクリニックで、自分の持つ考えを再認識し、頑張ろうってパワーも頂いて帰りました。それが、一番のお薬だったなあって。これからも、宜しくお願いします。本当に嬉しいメールです。わざわざ伝えなくてもいいものですが、本当の信頼が伝わってきます。医療関係者というところも重要です。当院から帰る安心のお薬、仕事場でもみんなに持たせてあげてください。ありがとう♪(´θ´)ノ

## ・B型肝炎ワクチンの定期接種

10月1日からB型肝炎が定期接種となり、無料で接種できるようになりました。対象は2ヶ月から1歳未満児です。計3回の接種になりますが、1回目は2ヶ月、ヒブ・肺炎球菌ワクチンとの同時接種をすすめます。8月生まれからが対象ですが、今年度限り4月生まれから対象になります。時期がずれると3回目1歳を超える可能性が出てきます。1歳を過ぎると任意接種となるので、早めに接種しましょう。またまたワクチンが増え、接種スケジュールが混乱することが予想されます。スタッフに、しっかりスケジュールを立ててもらってください。詳しくは、スタッフにご相談ください。

## 9月の感染症の集計



夏カゼのヘルパンギーナ、手足口病が名残のように見られました。季節の変わり目には咳がひどくなる気管支炎が流行します。その一つがRSウイルス感染症です。全員検査するわけではありませんが、全国的に流行しています。特別な治療はなく対症療法です。

## Mail News, Facebook の紹介

**Mail News** は、570人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。



最新情報はFBを見てください。  
Mail News が届かない場合は [kodomo-clinic.or.jp](http://kodomo-clinic.or.jp) をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。

## 編集後記

今年は秋の長雨というか、不順な天候が続いています。台風のコースや局地的な豪雨など、従来と違う気象状況です。「あなたは大丈夫？子どもの救急蘇生」は多くのお母さんに集ってもらい、医師会広報誌の取材もうまくいき、鼻高々です。その勢いが余ってしまい、紙面は埋め尽くすばりの文字の波になってしまいました。これも皆さんの想いの強さでしょう。



**K's clinic**

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』  
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！